

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 12日は、オホーツク海に低気圧が進み、前線が東北南部付近にのびる。一方、高気圧が日本海西部に移動する。
- 13日から16日にかけては、日本のはるか東の高気圧と中国東北区から千島近海へ移動する高気圧の間となる東北地方から東日本付近は気圧の谷となる。
- 期間を通して西日本太平洋側から沖縄・奄美は、東ないし南からの湿った空気が流れ込む。

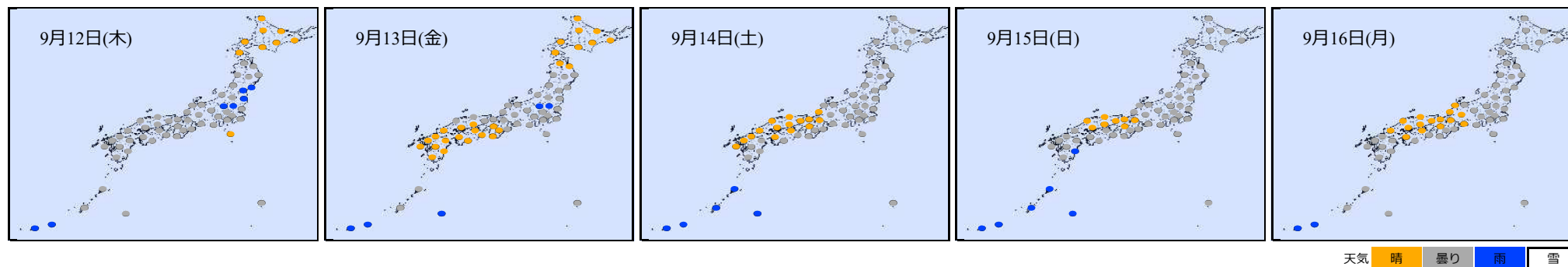
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 気温が平年よりかなり高くなる所があり、猛暑日となる所もある。熱中症など健康管理に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

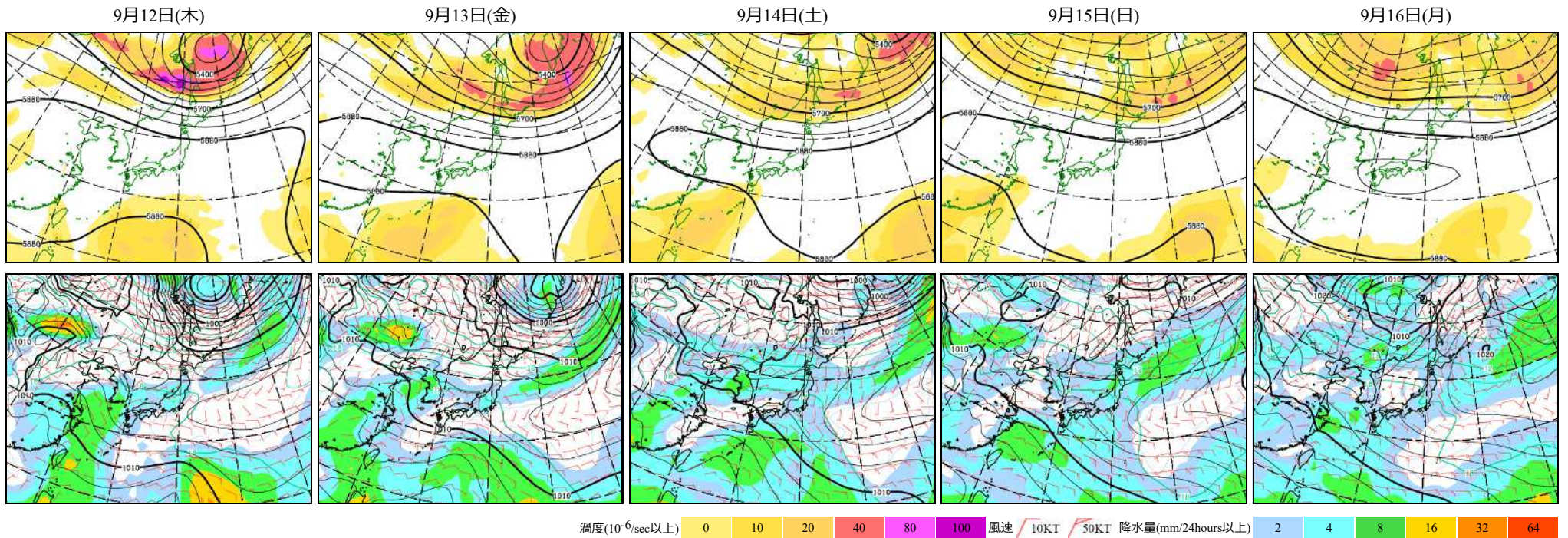
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

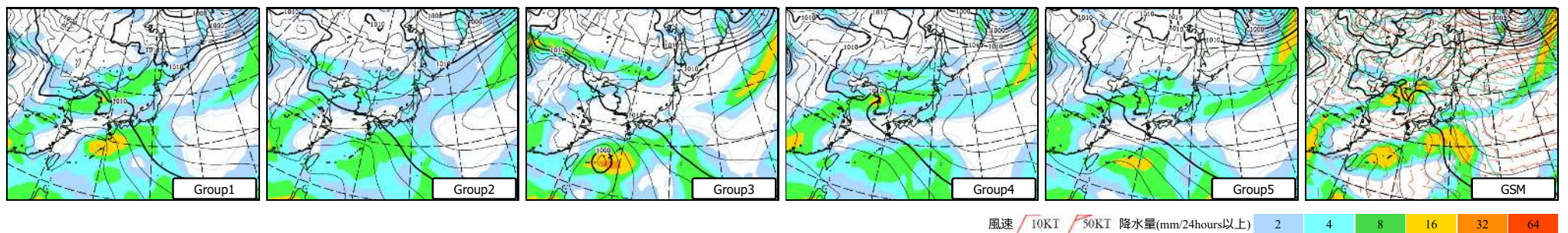


- 北日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、12日は雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく12日から13日は雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月14日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- スプレッドは比較的小さいが、後半は特定高度線のばらつきが見られる。
- 期間の後半は、日本の南から東シナ海付近へ進む熱帯じょう乱の動きについて、モデル間でばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。